

アメリカ合衆国

ワシントン州



グラント郡視察

(Grant County)

令和元年 5 月 12 日 (日) ~ 5 月 17 日 (金)



グラント郡庁舎

地域活性化営業部 シティプロモーション課
小牧市教育委員会 学校教育課

目次

グラント郡視察日程表	P1
視察都市等の概要	
グラント郡	P2
グラント郡国際空港	P3
アクセス	P4
気候	P5
治安	P5
視察報告	
COLUMBIA BASIN TECHNICAL SKILLS CENTER(コロンビアバseinテクニカルスキルセンター)	P6
MOSES LAKE SCHOOL DISTRICT LEARNING SERVICE CENTER(モーゼスレイク学区)	P10
CHIEF MOSES MIDDLE SCHOOL(モーゼス中学校)	P11
グラントカウンティ No.5 消防署	P13
グラント郡国際空港	P15
米国三菱航空機	P16
Grant County Economic Development Council(グラント郡経済開発委員会)	P19
Big Bend Community College(ビッグ・ベント・コミュニティ大学)	P21
GRANT COUNTY COURT HOUSE(グラント郡庁舎)	P24
(資料) ワイアンドット市との比較	P26
考察・まとめ	P27

訪問者(3名)

地域活性化営業部	部長	小林	直浩		
小牧市教育委員会	学校教育課	指導主事兼主幹	加藤	和昭	
地域活性化営業部	シティプロモーション課	観光交流係	係長	渡邊	浩

グラント郡視察 日程表

月日	時間	交通	スケジュール	
第1日目 5/12(日)	中部国際空港 成田空港 シアトル・タコマ国際空港	13:00 14:30 15:45 18:45 11:20 12:45 15:30	ANA494 ANA178 専用車	中部国際空港集合 成田空港へ 成田空港到着⇒国際線ターミナル乗継 シアトル・タコマ国際空港へ シアトル・タコマ国際空港到着 シアトル航空博物館視察 ホテル到着
第2日目 5/13(月)	シアトル グラント郡 モーゼスレイク市	7:30 11:20 12:30 13:50 15:00 15:30 16:30 18:00	グラント郡 専用車	ホテル出発 グラント郡モーゼスレイク市へ COLUMBIA BASIN TECHNICAL SKILLS CENTER 視察 MOSES LAKE SCHOOL DISTRICT LEARNING SERVICE CENTER 視察 CHIEF MOSES MIDDLE SCHOOL 視察 シヤハ°ニース°ヒ°ースカ°ーテン視察 MOSES LAKE CIVIC CENTER 視察 ホテル到着 歓迎会
第3日目 5/14(火)	グラント郡 モーゼスレイク市	7:50 8:10 9:00 10:00 13:05 14:00 16:30 18:00	グラント郡 専用車	ホテル出発 グラントカウンティ No.5 消防署視察 グラント郡国際空港視察 米国三菱航空機視察 Grant County Economic Development Council 視察 Big Bend Community College 視察 ホテル到着 Big Bend Community College 及び日本人農業訓練生と会食
第4日目 5/15(水)	グラント郡 モーゼスレイク市 エフラタ シアトル	8:00 9:00 18:00	グラント郡 専用車	ホテル出発 GRANT COUNTY COURT HOUSE 視察 ※シェリフ、裁判所も視察 ホテル到着
第5日目 5/16(木)	シアトル シアトル・タコマ国際空港	9:40 10:20 13:20	専用車 ANA177	シアトル・タコマ国際空港へ シアトル・タコマ国際空港到着 成田空港へ
第6日目 5/17(金)	成田空港 中部国際空港	15:40 17:05 18:15	ANA337	成田空港到着 中部国際空港へ 中部国際空港到着 解散

視察都市等の概要

グラント郡（ワシントン州）の概要

人口：95,360人

面積：7,228.7 km²

(参考)愛知県 5,172.9 km²

小牧市 62.8 km²

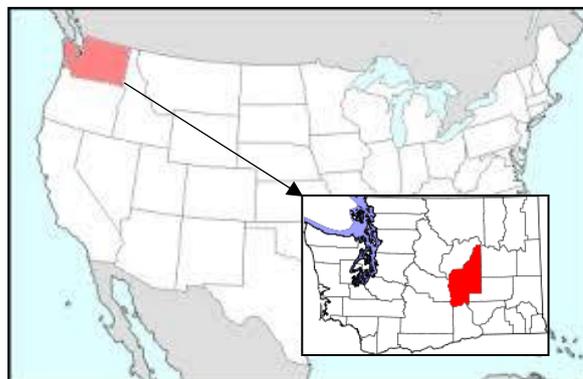
アメリカ合衆国ワシントン州のシアトルから東に約280kmに位置し、郡庁所在地はEphrata（エフラタ）であり、人口最大の都市はモーゼスレイク市（人口約2万人）である。

郡名は、1909年にダグラス郡から分離する際に、第18代アメリカ合衆国大統領ユリシーズ・グラントに因んで名付けられた。

19世紀半ばに初めて白人開拓者が移住し始め、主に家畜を育てた。その後、この地域に鉄道が敷かれて、新しい開拓者が移住し、経済は牧場経営から乾燥農業に代わり始めた。乾燥農業の開始と共に、この地域には主要な鉄道が3本通ったことに加え、この地域を流れるコロンビア川の船舶を活用し、農産物を容易に運び出すことができたため、町は繁栄を始めた。

更にこの地域の様相を根本的に変えることになったのは、エフラタ出身の事業家集団が始めたコロンビア盆地再生プロジェクトで、その中で最も要因となったのは、グラントクーリーダムによりコロンビア川を堰き止めたことであった。

グラント郡が所属するワシントン州は、2016年10月18日に愛知県と友好交流及び相互協力に関する覚書を結んでいる。また、モーゼスレイク市は、1981年から山形県米沢市と姉妹都市提携を結んでいる。



グラント郡の位置



グラントクーリーダム



エフラタの町の様子

グラント郡国際空港の概要

面積：1,902ha

(参考) 県営名古屋空港 約 171ha

中部国際空港 471.3ha

グラント郡モーゼスレイク市にある空港で、モーゼスレイク港湾局が管理している。

アメリカの空港の中で、最長の滑走路を有する空港の一つで、滑走路の長さは4,100mである。

かつては、アメリカ空軍のラーソン基地として運用していた。本空港からの旅客便運航は、2010年6月8日を最後に行われて

いない。現在の当空港への発着機のほとんどは、ゼネラル・アビエーション（軍事航空と定期航空路線を除いた航空の総称）又は軍用機である。

また、日本航空が、1968年から40年間に渡りボーイング747の操縦訓練施設を設けていたが、2009年に閉鎖された。

2016年からは、三菱航空機が製造するリージョナルジェット・MRJが国土交通省の定める型式証明を取得するため、飛行試験を行っている。

同年の10月18日には、県営名古屋空港と姉妹提携を結び、交流を続けている。



グラント郡国際空港の滑走路



グラント郡国際空港の正面

アクセス

行き (中部国際空港～シアトル・タコマ国際空港)

中部国際空港 → 成田空港 → シアトル・タコマ国際空港
 1時間15分 (3時間) 8時間45分

所要時間：13時間 (飛行時間：10時間)

行き (シアトル～グラント郡モーゼスレイク市)

シアトル → North Bend (ノースベンド) のストア → ドライブイン
 30分 1時間10分

ドライブイン → ジンコー・ペトライフアイト・フォレスト州立公園 → モーゼスレイク市
 35分 40分

移動時間：2時間45分

帰り (グラント郡エフラタ～シアトル)

Ephrata (エフラタ) → ワイナリー → Wanapum Heritage Center (歴史博物館)
 40分 45分

歴史博物館 → ドライブイン → シアトル
 1時間 1時間40分

移動時間：4時間5分

帰り (シアトル・タコマ国際空港～中部国際空港)

シアトル・タコマ国際空港 → 成田空港 → 中部国際空港
 10時間10分 (1時間20分) 1時間10分

所要時間：12時間40分 (飛行時間：11時間20分)

飛行時間は、行き10時間、帰り11時間20分で、帰りが偏西風の影響で長くなる。成田空港でのトランジットは、航空ダイヤにより、行きは3時間、帰りは1時間20分であったが、ベンチ等休憩施設は充実している。

シアトルからグラント郡までのアクセスは、高速道路で約280kmあるが、アメリカ合衆国の幹線である高速道路(R90号)が整備されている。また、途中、トイレ休憩できるドライブインや博物館等が多数ある。シアトルからは、冬にはスキー場となるカスケート山脈越えの行程であるが、その事がかえって風景の変化となり、アメリカ西部の植生・気候の変化を実感でき、風力発電施設やコロンビア川沿いの浸食地形など、アメリカの壮大さを体感できる。

気候

[夏] 気象：暑く、ほぼ晴れ。

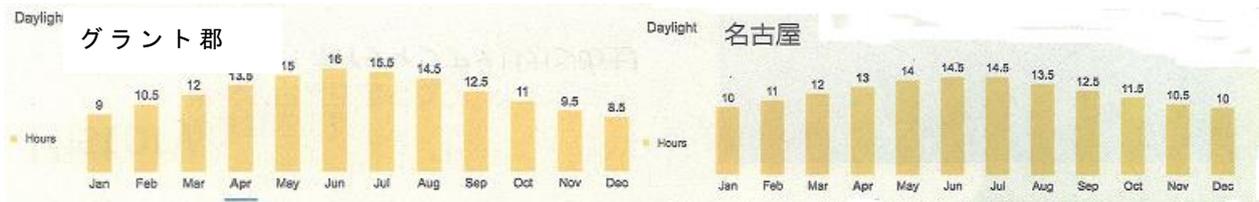
気温：(最高) 27℃～33℃ (最低) 10℃～16℃

[冬] 気象：凍えそうに寒く、一部曇り。

気温：(最高) △1℃～4℃ (最低) △7℃～△1℃

※年間を通じて乾燥状態である。

[日照時間]



視察日程の5月12日から5月17日までは、本市の4月中旬並みの気温で快適であった。

雨は、ほとんど降らないとのことであり、その事由で三菱航空機のMRJの試験飛行地となったとのことだが、当日は、降雨があった。

草火事は、冬期にグラント郡の北部で発生することがあるとのことである。また、ガラガラヘビが夏期にグラント郡の北部等で出没するとのことであるが、グラント郡のエフラタ、モーゼスレイクでは見たことがないとのことであった。

治安

《グラント郡》

- ・凶悪犯罪は非常に少なく、一部近寄らない方が良い場所があると聞いたが、アメリカでは良い方である。
- ・グラント郡モーゼスレイク市の人々は、元々、日本航空（JAL）が居たこともあり、日本人に対して、非常に友好的である。
- ・最近、メキシコからの移住者が多いことが一部問題となっている。

《シアトル》

- ・近年、シアトルの一部で浮浪者が多くなっている。
- ・Amazon（アマゾン）による企業活動で、街の再開発が進められ、街の治安が改善された地区も多い。

視察報告

COLUMBIA BASIN TECHNICAL SKILLS CENTER (コロンビアバasin技術スキルセンター) 視察

【日程】

令和元年5月13日（月） 午後0時30分

【出席者】

役 職
グラント郡モーゼスレイク教育学区副長官
外国人学生交流リエゾン
Executive Director of Student Services
Director
教育委員（市民代表）

【概 要】

- 生徒数：385名(最大420人まで受入可能)
- ワシントン州にある技術高校16校の内の1校（州の技術高校にある全てのプログラムを所有）
- 取得コース
起業、警察、医療、料理、コンピュータコースなど



高等学校の入口前にて記念撮影

【視察内容】

グラント郡モーゼスレイク市のキャロル教育学区副長官、サラ教育学区国際関係協会部長も同席し、学校関係者からのプレゼン説明を受ける。また、調理コースの高校生が作ったハンバーガーとコーヒーを昼食として試食した。



学校関係者からのプレゼンの様子



調理コースの生徒が作ったハンバーガーなど

- ・グラント郡モーゼスレイク学区の方針（ねらい）は、学校の枠を超えて、市民全員の成功と健康や生活の豊かさを考慮した社会をつくることとしている。
- ・グラント郡モーゼスレイクの教育学区の中で、どの施設でも、どの教室でも、どの先生方でも持っていてほしい6つの要素（目標）がある。

No.	要素（目標）
①	どの生徒でも自分の子どものように扱って、彼らの成功を支援する。
②	学生たちが、精神的にも身体的にも安全に学習できる環境を提供する。
③	様々な背景の学生がいるため、学生の安全を守るとともに、子どもたちの教育支援に力を尽くす。
④	学生たちを指導する上で、学生の意思を尊重しながら進めるとともに、それぞれの科目や指導内容が、他のものと統一が図れているようにする。（4つ目と5つ目は類似しているため、同表記）
⑤	
⑥	研究機関が教育に関して研究を行う場合、どういった指導をすれば学生のためになるか、どういった環境であれば伸びるのかということ科学的な根拠を持って教育する。

- ・技術高校であるため、卒業して直ぐに働けるような能力を教える。
- ・この学校は、グラント郡国際空港の工業団地内の企業のニーズによって、高校やコミュニカレッジ（その地方の住民、税金を払って住んでいる人たちへの高等教育、生涯教育、継続教育の場として設立された学校）のカリキュラムを変更することができる。（州知事の許可なくカリキュラムを変更できる。）また、企業とのタイアップが強いことから、企業が望む人材の育成をするとともに、企業が学生への金銭的な支援も行っている。



調理コースの授業の様子



医療コースの授業の様子

- この地域の企業が農業や工業をするに当たっては、長期で働ける人材が必要であるため、地域の教育レベルを全体的に上げて、かつ、手に職を持てるようにすることが第一目標となっている。グラント郡国際空港も、企業を支援するための人材（学生）を育成することに、お金も労力もかけている。企業、空港、郡、学校の

全てが連携して、地域の教育レベルを上げようとしているため、外からの受入れや外へ行かすことは考えていない。卒業後の地元企業への定着率は、他の都市と比べても高い。

- 教員も地元の人が良いため、高校2年生から教員を意識した教育指導を始め、高校2年生から小学校や中学校に行き、教員のあとについて、教員としてどういったことが必要か学べるようにしている。
- グラント郡モーゼスレイク市の教育学区を卒業する人数は、毎年500人である。その内、4年生の大学に進学するのは30%、残りの70%は、大学に行かなくても直ぐに職に就け、ある程度の給料がもらえるようにし、数年には家族が持てるようにすることが目標である。

- グラント郡モーゼスレイクに限らず、ワシントン州で実施していることだが、選択するコースで、単位を取得することができるカリキュラムとなっており、高校を卒業した時点で、準学士が取得できる。（日本で言う短大レベル）また、やる気があれば、お金をかけなくても短大のカリキュラムを受けることができ、短大のカリキュラムを受けた場合、高校を卒業した時点で、短大卒となるため、4年生大学は、2年生への編入扱いとして、2年で卒業することができる。このカリキュラムを可能としているのが、オンライン学習である。自分の空いた時間に勉強できることが特徴である。



生徒が作った服を販売



コンピュータコースの授業の様子

- 直ぐに実践できる教育は中学校から始まっていて、各生徒が最低1台のパソコンを持つようになっている。パソコンは自宅に持って帰ることもでき、家庭学習によって、専門的な技能・知識を向上させている。一人1台のパソコンを提供するための予算は、地元の固定資産税を当てている。

MOSES LAKE SCHOOL DISTRICT LEARNING SERVICE CENTER(モーゼスレイク学区)視察

【日程】

令和元年5月13日(月) 午前11時20分

【出席者】

役 職
グラント郡モーゼスレイク教育学区副長官
外国人学生交流リエゾン
教育委員(市民代表)

【概要】

グラント郡モーゼスレイク学区は、多様な学習のニーズを満たすためのプログラムの開発と実施に取り組んでいる。その一つとして、特別教育部門は、教育的障害を持つ子供たちにサポートとサービスを提供している。そのため、学校心理学者、言語療法士、看護師、作業療法士、行動専門家、そして指導コーチがいる。そして、すべての子どもたちのための成功した学術的、社会的、行動的経験をもとに、地区の障害を持つ子どもたち一人ひとりに対応する特別な教育活動を提供している。

【視察内容】

到着と同時に中を案内された。特別支援教育、教員研修、総務などの仕事を集約した施設で、施設内には様々な会議室が多くあり、教員それぞれの個室、さらには医師などが常駐できる部屋などがあった。いわゆる教育センターとしての設備を備えている施設である。



施設前での記念撮影

今後、本市の交流の窓口になるNPO法人は、この施設内に設置される。

CHIEF MOSES MIDDLE SCHOOL (モーゼス中学校) 視察

【日程】

令和元年 5 月 13 日 (月) 午後 1 時 50 分

【出席者】

役 職
グラント郡モーゼス教育学区副長官
外国人学生交流リエゾン
PRINCIPAL OF CHIEF MOSES MIDDLE SCHOOL (校長)
ASSISTANT PRINCIPAL OF CHIEF MOSES MIDDLE SCHOOL (副校長)

【概 要】

- 生徒数：938 名
(日本人生徒数：11 名)
- 学級数：53 学級
(1 学級は 28 名上限であるが、
ほぼ 25 人以下の編成)
- 特別支援学級数：2 学級
(12 名在籍)
- 教員数：51 名



中学校前での記念撮影



校内での記念撮影

【視察内容】

校長・副校長の案内のもと、校内を視察。初めに屋外を案内されるが、日本とは違う広々とした運動場や体育館に圧倒された。現在、隣接する小学校の人数が増え、校舎対応ができないため 5 年生のみ中学校の運動場隅にプレハブを 4 棟建てて学習をしている状況であった。

途中で日本人 3 名の小学 5 年生が登場。在学期間の一番長い子で 2 年 8 ヶ月。それ以外の子は昨年 11 月からとのことだが、3 名とも口をそろえて言ったことは、学校生活は、とても楽しいということだった。3 名とも三菱航空機の住宅に住んでいる。



運動場隅に建てられたプレハブ



広々とした体育館

校内に入り、まず目にしたのは、映画のワンシーンに出てくるような壁にロッカーが設置してある長い廊下。全員で記念撮影をしていると、1 匹の犬が現れた。この犬は、セラピー犬と言って、2018 年 9 月から専属で 1 頭配置されている。当時、情緒不安定な女子生徒の対応のために、カウンセラーと一緒に配置され、現在も子どもたちの心のケアに努めている。

生徒の通学は、治安がいいのか、1 マイルまでなら徒歩通学、それ以上はバス通学という対応となっていた。ただ、徒歩通学があるのは安全な証拠かなと思う反面、校内に専属の警察を配置させているのは日本では考えられない。



長い廊下



セラピー犬



スクールバス



専属警官と記念撮影

グラントカウンティ No. 5 消防署視察

【日程】

令和元年 5 月 1 4 日（火） 午前 8 時 1 0 分

【出席者】

役 職
所長
リーダー

【概 要】

- 職員数：80 名（ボランティア）
- 消防署数：郡の中に 15 の地区があり、その中の 5 つを管轄。
その 5 つの区域内に 12 の消防署がある。
- 管轄面積：約 500 平方マイル



陸軍から購入した車両

【視察内容】

早朝にもかかわらず、所長と担当者の 2 名で親切に案内していただいた。この消防署は、市及びグラント郡国際空港が管轄する以外の地域を管轄している。グラント郡国際空港の消防は、飛行機の機体を主に消火にあたるため、建物等の構造物については、郡の消防が来るまで対応するが、郡の消防が来た時点で引き渡す。

郡の出動件数を占めるのが、自動車事故と山火事である。自動車事故には、TECHNICAL 車（専用車）を使用し、山火事については、3,000 ガロンを貯水して、1 分間に 1,000 ガロン放水できる消防車を使用し、規模に応じて、その消防車に給水できる 12,000 ガロン貯水できる専用車も所有している。それ以



12,000 ガロン貯水できる専用車

外の車両として、ハシゴ車を所有しているが、ハシゴ車は、空港の管制塔にしか使用しないため、管制塔の近くに駐車している。



改造している車両

これらの消防車両は、自分たちで車体を改造するのが基本で、整備に必要な機材等は、軍や造船所から安く購入している。消防車の使用許可基準は、どのように造っても、審査にさえ通れば、使用可能になる。

自分たちで車両を造っているように、予算だけでは、運営が厳しいため、他の施設の車両を修理して収入を得ている。

グラント郡国際空港視察

【日程】

令和元年5月14日（火） 午前9時00分

【出席者】

役 職
コミッショナー
空港長

【視察内容】

空港所有の車両に乗車し、飛行機の滑走路を走行した。滑走路をある程度走行したが、滑走路の先端まで確認することができないくらい広大な敷地である。途中、車を止めて、写真撮影を滑走路の上で行うことができたが、この体験を今後の交流時にも同様をお願いできるとしたら、貴重な経験となると思われる。



滑走路上で記念撮影



消防車によるデモンストレーション

また、空港の消防隊を視察。消防設備についての説明もあった。同空港には、オーストリアのローゼンバウアー製消防車で、国内空港でもおなじみの「パンター」(Panther)が配備されている。24時間空港らしく夜間でも視認性のよい黄色にペイントされていたボディが目にとまった。

デモンストレーションも行なわれ、角度を自在に操って遠距離への放水、高速走行しながらの放水を披露していただいた。

米国三菱航空機視察

【日程】

令和元年5月14日（火） 午前10時00分

【出席者】

役 職
Vice President
プロジェクトマネジメント副室長
オペレーション・サポートリーダー
コミュニケーション コーディネーター

【概 要】

- 開 業：2016年～
- 職員数：約450人（日本人200人弱）
- 飛行機数：4機のMRJ

号機	名称	内容
1	Rising Star	性能テスト用
2	Pirates	振動テスト用
3	Dragons	電気系テスト用
4	Shinobi	環境・室内テスト用



米国三菱航空機の玄関

- 三菱名誘の職員も何名か在籍しており、その内の一人は元小牧市在住者。

【視察内容】

厳重なセキュリティによる確認を終え、会議室にて、米国三菱航空機の説明を受けた後、ハンガー（格納庫）にて、修理中のMRJを視察し、滑走路にて実際に動く（グランドテスト）MRJを目の前で見ることができた。

視察後は、会議室内で、出張販売の酢豚弁当を食べながら、日本人から見るこの地域の治安などについて説明をいただいた。



説明を受けている様子



入室のためのセキュリティチェック



MRJ のグラントテストを視察

・グラント郡国際空港を選定した理由は、以下のとおりである。

①滑走路の長さ（13,500 フィート）と横幅の広さ

長い滑走路はゆっくり離陸する際に、横幅の広さはスライドテスト等を行う際に適している。

②過去にボーイングもこの飛行場でテストを行っている。

試験に慣れた空港である。

③定期便がないため、いつでも飛行できる。

④飛行するテストエリアには、ほとんど民家がないため、騒音や安全面に気を遣うことなく飛行できる環境である。

24 時間 365 日使用できる。

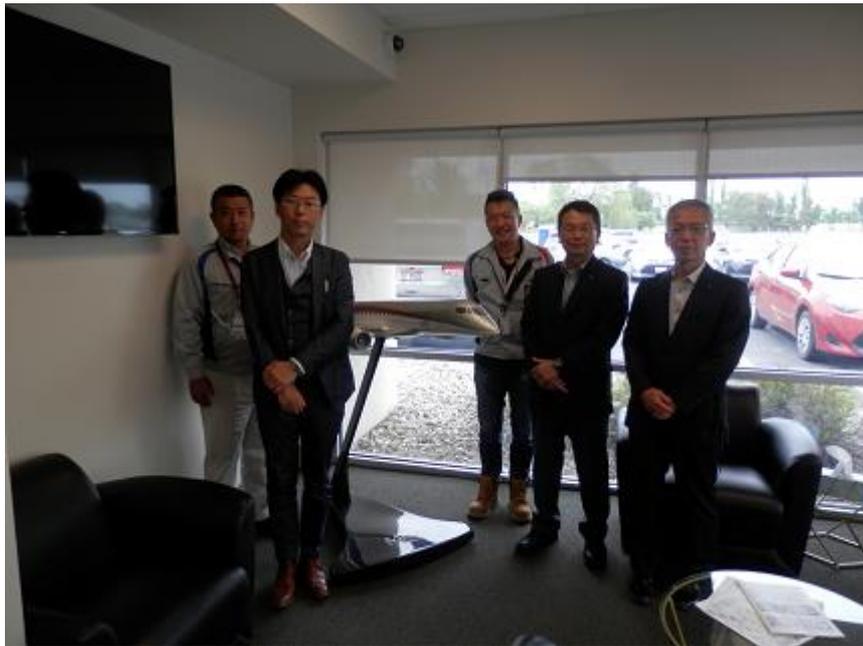
⑤テスト飛行に必要な気象条件をクリアしている。

この地域は、年間のほぼ 90%以上が晴天なため、有視界飛行が可能であり、その条件をクリアすることができた。



駐機している 1 号機 (Rising Star) と 2 号機 (Pirates)

- ・10号機は、7月にグラント郡国際空港に来る。現状、日本にある機体は、7号機、10号機、11号機である。この3機は、最終的にお客様に納入するものと同じ機体である。11号機は、しばらく日本でテスト飛行を行う。
- ・見学ツアーの受入れを行っているため、小牧市からの依頼があれば、中学生の受入れも可能である。
- ・地域貢献の一環として、ビックベン・コミュニティカレッジにパイロット養成コースがあるため、年間2万ドルの奨学金を提供している。



お世話になった米国三菱航空機職員と記念撮影

Grant County Economic Development Council (グラント郡経済開発委員会) 視察

【日程】

令和元年5月14日（火） 午後1時05分

【出席者】

役 職
エグゼクティブディレクター
ビジネスリクルートメントマネージャー
事業開発マネージャー
会計士

【概 要】

- 職員数：4名（出席者と同じ）
- 州と郡と市とポート（貿易港）のビジネスを繋ぐ仲介を担う立場。
- グラント郡にある10のポートを管轄している。
- 3つの方針がある。
 - ①現状の顧客を維持し続ける。
 - ②新しいビジネスを他の地域から誘致する。（全米）
 - ③人材の確保、育成、支援。



ギフト交換の様子

【視察内容】

会議室にて、事務局長をはじめ、職員の自己紹介があり、その後、以下の内容について説明があった。

- ・ Grant County Economic Development Council とは、「経済開発委員会」という意味で、商工会とは違う。

経済開発委員会	商工会
ビジネスだけでなく、市民やその市のインフラ、郡全体としてのバランス、州政府、連邦政府に対しての働きかけを行っている。	ビジネス同士がグループを作って、その中で、お互いが知り合ったり、一緒にビジネスを行う。

- ・「経済開発」という言い方をしているのは、元々、グラント郡モーゼスレイク市には空軍基地があったため、周辺にビジネスはほとんどなかったが、ポートになった段階で、海外との貿易ができるようになって、その周辺に町を造っていくという責任があるためである。
- ・グラント郡モーゼスレイク市の西側にあるクイーン市は、電力が安いいため、データ産業の多くの企業が参入している。
- ・日本航空の訓練施設があったため、親日感情が強く、日本の企業は大歓迎である。現在は、三菱航空機、多摩ケミカル、モーゼスレイクインダストリーなどがある。
- ・農業は、90種類以上の穀物があるため、それを加工する工場や冷凍する工場が多くある。
- ・経済開発委員会の中には、「S B D C」という組織がある。この組織は、産学連携を行う組織で、ワシントン州立大学の組織の一部である。ワシントン州立大学の資金を使って、地域活性の支援を行う。企業が相談するなどの費用は無料。職員は、大学院の学生が派遣されてきて、アラン氏の部下として仕事する。もちろん人件費もかからない。
- ・海外（中国、日本、韓国、マカオ、香港）に赴き、貿易ミッションするための視察を行っており、直近では、9月か10月に予定している。もしかしたら、日本に行く可能性があるため、その際は連絡するとのことであった。

Big Bend Community College(ビッグ・ベント・コミュニティ大学)視察

【日程】

令和元年5月14日(火) 午後2時00分

【出席者】

役職
副学長 教育・人材開発責任者

【概要】

パイロット養成コース

- 生徒数：120名
- 教員数：講師(教授)5名、インストラクター6名
- 学費：670万円/2年間(生活費を含む)
- 所有機数：27機
- ワシントン州立大学である。



パイロット養成コースの校舎入口

【視察内容】

副学長の案内で、3コース(パイロット養成コース・エンジニアコース・メカトロニクスコース)を見学。それぞれのコースごとに担当教授が細かく説明をいただいた。

パイロット養成コース

- ・知識がない人でも2年後には、パイロットになれるようにする。
- ・入学後は、シミュレーションで訓練を行い実機へ。このシミュレーションは、全世界の映像や天候も自由に変更でき、敢えてトラブルを体験させる。
- ・実機の訓練は、年間1,600時間の飛行を行う。1回のフライトで、1時間の訓練ができる。
- ・視察中、次から次へと生徒がセスナ機に搭乗して離陸する状況で、簡単に操縦できるような感じを受けるとともに、驚きでもあった。



シミュレーションの説明の様子



駐機している訓練機

エンジニアコース

- ・ 経験を重視したカリキュラムで、実機の解体・組立てを行う。
- ・ 受講時間が 1,900 時間 (400 時間：一般教養、750 時間：エンジン以外の機体について、750 時間：エンジン関係) に達すると試験が受けられ、その試験は、筆記と口頭試験である。教授 2 名が試験を行う。



教授による説明の様子



整備訓練用の飛行機の羽の上で記念撮影

メガトロニクスコース

- ・ このコースは、ドローンの操縦練習を始めとして、救助や農業などへの活用事例の検討を行っている。
- ・ 実際にドローンの操縦を体験したが、ゲーム感覚で操縦でき、楽しみながら説明を受けた。また、説明を受ける中で、ドローンの必要性について学ぶことができた。



ドローンを飛ばしている様子



シミュレーションでのドローン飛行訓練の様子

午後 4 時から、日本人留学生プログラムを活用して入学した日本人農業留学生 3 名と大学関係者を含めて対談を行った。彼らは、学生ビザを取得して、18~19 か月間のプログラムを受ける。最初の 9 週間は、英語とスペイン語を学ぶ。スペイン語については、実際に雇用する多くの人々が、母国語をスペイン語としているため学ぶものである。語学習得期間を終えると、1 年 4 か月もの間研修として、全米の各農家・酪農で実際に働く。その後、継続して運営できるようビジネスについて、UC デイビス校（有名校）で学び、研修を修了する。

留学生 3 名と対談して、率直に感じたことは、たった 1 か月足らずで、現地の方々との会話に不自由を感じさせないくらいの話をしていることに、驚くとともに、やはり、日本の教育のような机上の学習では会話能力は身につかないと実感した。

中学生にとっても、短期間のアメリカ滞在は、語学学習への意欲を高めることになり、とても効果的であると思う。

GRANT COUNTY COURT HOUSE(グラント郡庁舎)視察

【日程】

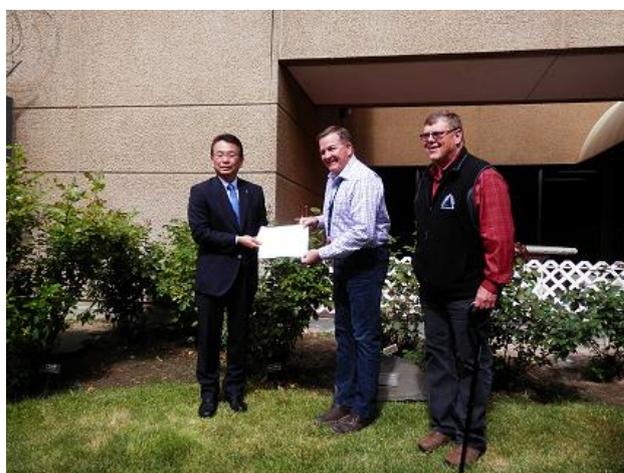
令和元年5月15日(水) 午前9時00分

【出席者】

役 職
Commissioner, District(長官)
Commissioner, District(長官)
Commissioner, District(長官)

【視察内容】

庁舎に着いた早々、3長官が出迎えていただき、各部署を案内していただいた。庁舎内は、裁判所等も入っているため、写真撮影は禁止であった。それぞれの部署を案内いただいた後、過去に小牧市から贈呈した土産品の前で、ギフト交換を行った。この後、長官は公務のため、外出するとのことで、急きょ、見学途中で親書の受け渡しとなった。



親書を取り交わす様子

グラント郡は、現在、モーゼスレイク市が山形県米沢市との交流をしているだけで、郡内の他の市町は、日本との交流が無いことから、郡として、本市と交流できることを望んでいるとの所感を伺った。

最後にシェリフ(保安事務所)及び刑務所内を案内いただき、今回の視察の全てを終えた。

刑務所

刑務所では、独房や面会室等が一望できる監視室で説明があった。説明を聞いている間、独房から女性がずっとこちらを見ており、終始目が合い少し恐怖を感じた。また、映画のワンシーンのような面会室にて、囚人と面会しているところが見えた。

- ・当初の収容人数は、85名であったが、現在は改修し、約200名を収容することができる。現状は、約160名収容している。
- ・刑務所内には、薬物中毒者が多くいるため、様々な方法で施設内に持ち込むケースがあることから、セキュリティに力を入れている。施設内に入る際に、体の中まで確認できるボディスキャナーの導入や家族や友人が封筒に粉（薬物）を染み込ませて送ってくるケースもあるため、それを検知できる機械を導入している。

シェリフ（保安事務所）

【出席者】

役 職
所長（第19代目）

所長の案内で、施設内を見学した。途中、何名かの保安官とあいさつしたが、どの保安官も格闘家のような体型で、更に防弾チョッキを着用していることから、非常に大柄に見えた。

所長室に入り、シェリフについての説明を受け、恒例のギフト交換を行い、屋外に停めてある白バイのところで記念撮影して視察を終了した。

- ・この施設が、シェリフの本部になる。
- ・所長、副所長がいて、副所長の下に4名の長がいる。その4名は、「薬物や交通など、それぞれの担当に分かれている。
- ・シェリフは、郡全体で約670名いて、その内の120名は、シェリフの上役になる。



ギフト交換の様子

(資料)ワイアンドット市との比較

比較内容	グラント郡	ワイアンドット市
州	ワシントン州	ミシガン州
人口	95,360 人	約 28,000 人
面積	7,228.7 km ²	13.75 km ²
空港	シアトル	デトロイト
渡航時間	13 時間 (乗継 3 時間含)	12 時間
空港から現地までの移動時間	2 時間 45 分	30 分
時差	マイナス 16 時間	マイナス 13 時間
気温	[夏] (最高) 33℃ (最低) 10℃ [冬] (最高) 4℃ (最低) △7℃	[夏] (最高) 29℃ (最低) 18℃ [冬] (最高) △7℃ (最低) △0℃
関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2016 年愛知県とワシントン州が「友好の覚書」を締結 ○ 同年県営名古屋空港とグラント郡国際空港が覚書「姉妹空港提携」を締結 ○ 平成 30 年 4 月及び 12 月に小牧市へ来訪 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1963 年 3 月に姉妹都市提携が成立し、交流を開始 ○ 昨年は、姉妹都市提携 55 周年 ○ 現状は、生徒 (中学生) 交流を実施 (H30 年度) 派遣 (H31 年度) 受入

考察・まとめ

《アクセスについて》

日本からシアトルまでの飛行時間は、行きは10時間で、空港から現地までの距離についても距離数(約280km)はあるが、渋滞等もなく、休憩・見学場所も多くあった。

《現地について》

行く先々で、手厚いおもてなしを受けた。過去に居た日本航空や現状の三菱航空機の関係から、現地の人々は、日本人慣れしているようで、非常に友好的であり、治安についても、アメリカの中でも比較的 안전한地域のように、凶悪犯罪は非常に少ないとのことであり、危険を感じたことは無かった。

町並みは、都市部のような高い建物はなく、昔のアメリカのような長閑な町で、広大な土地の大半は田畑であり、その土地の所々に住宅やお店が建っていた。

視察中の天候は、少し雨が降ったものの、晴れている時間が長く、朝晩は少し肌寒く感じるが、日中は、半袖で居られるような、非常に過ごしやすい地域であった。

《交流について》

教育(生徒)交流については、MOSES LAKE SCHOOL DISTRICT LEARNING SERVICE CENTER(モーゼスレイク学区)において、交流の窓口となるNPO法人を設置する予定であり、着々と受入体制を整えている状況であった。

また、産業交流についても、株式会社コモの長期保存できるパンや日本ガイシのNAS電池など、本市にある企業に対し興味を示しており、新たな交流の可能性を感じた。

《まとめ》

グラント郡の人々は非常に友好的であり、本市との交流を望んでいる。また、現地の環境や治安の問題はほとんど無く、教育、産業など持続的な交流の可能性はある。更に、米国三菱航空機が引き続き現地で事業を継続することもあることから、今後、グラント郡との友好交流を進めることは、本市にとって、非常に有効であると考えられる。